

社会福祉法人ケアネット 小規模多機能ホーム
☆**倶楽部千代田會館** 開設準備室だより☆

1号

平成20年
(2008年)
12月 1日

はじめまして！小規模多機能ホーム「**倶楽部千代田會館**」開設に向けて、開設準備室が出来ましたので、皆様にご挨拶を申し上げます。

その前にまず、皆様に社会福祉法人ケアネットの紹介をいたします。

社会福祉法人ケアネットは平成13年中野区弥生町2-42-2に特別養護老人ホーム・デイサービスセンター**やよいほうむ**を開設。その後平成18年にはデイサービスセンター**ふじみ苑**（弥生町5-2-19）、**本町地域包括支援センター**（特別養護老人ホームやよいほうむ内）、**弥生居宅介護支援事業所**（デイサービスセンターふじみ苑内）を開設し、中野区南部地域の皆様へ安心、安全な介護サービスを提供するよう努力して参りました。

しかし、短い期間に福祉を取り巻く環境や価値観が大きく変わり、より適切な介護サービスの模索、高齢者「介護」から「支援」へと流れは大きく変わりつつあります。

今後、人口の高齢化、認知症になる方の増加に対する切り札として現在期待されているのが「小規模多機能型居宅介護」と呼ばれる新しい介護サービスです。

倶楽部千代田會館概要

建設予定地：東京都中野区本町5-10-4

開所予定日：平成21年（2009年）5月

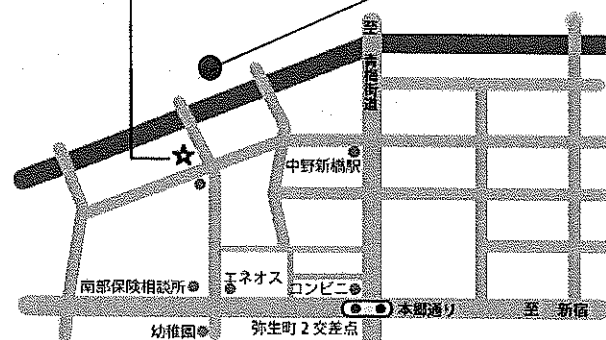
事業規模：登録定員25名〔通い定員15名、宿泊定員9名〕（予定）

特別養護老人ホームやよいほうむ

本町地域包括支援センター

小規模多機能ホーム

倶楽部千代田會館 建設予定地



小規模多機能型居宅介護とは！？

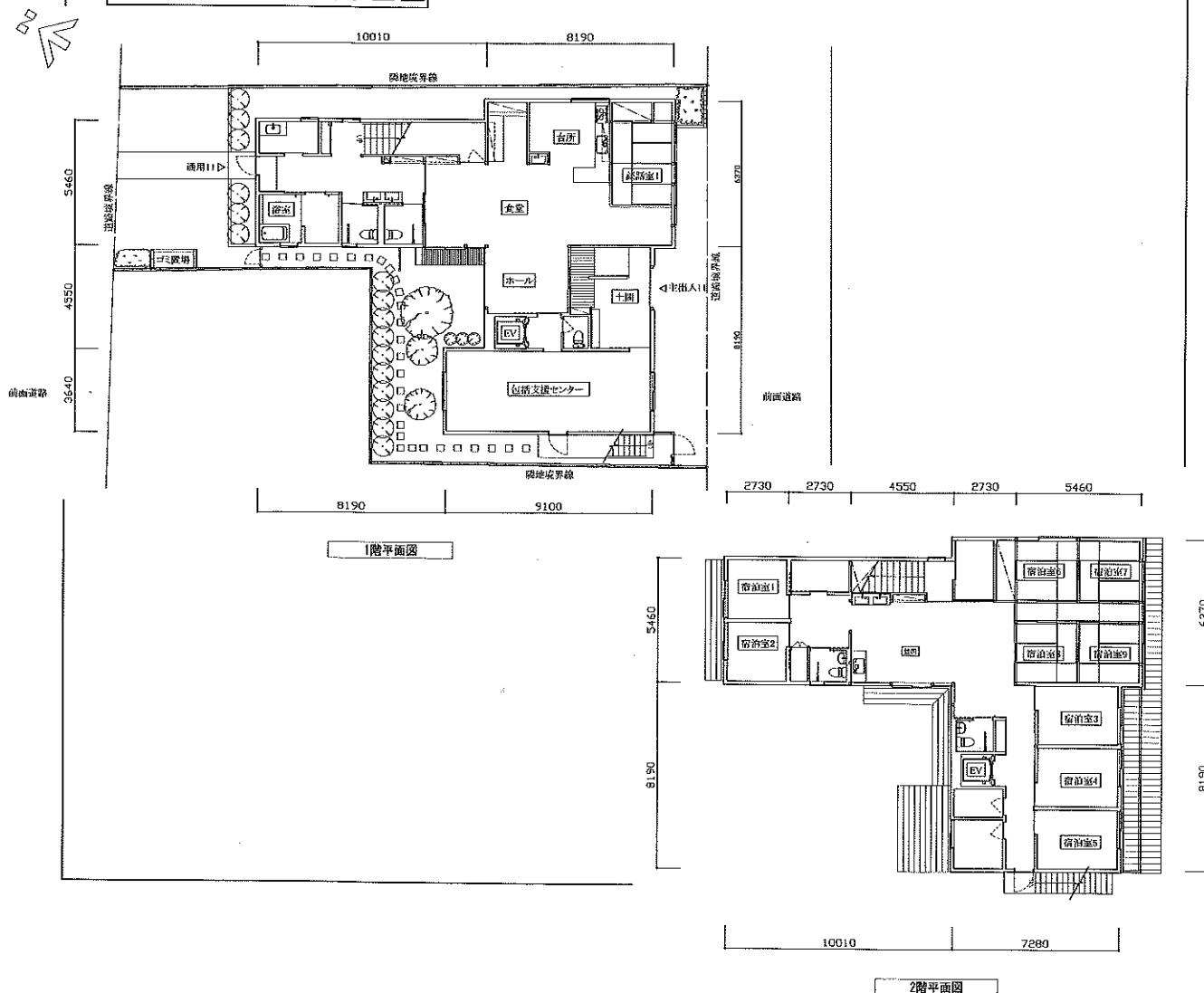
人は誰でも認知症になる可能性があります。適度な運動、健康的な食事、会話を通して認知症の発症を予防できることが最近の研究結果で判ってきました。

一般の家庭においては、今まで家事や身の回りのことをしていたお年寄りが、鍋を焦がしたり、歩行が不安定になってきたりすると、周囲の人達が心配してお年寄りから家事を取り上げ、食事・洗濯等を全て家族や介護ヘルパーが行う環境を作ってしまうがちでした。これはお年寄りを思う家族の親切心によるものですが、家事や仕事を失ったお年寄りが急に認知症になったり、体力が低下して寝たきり状態になるケースが多く発生しています。

少し鍋を焦がしたり、歩行が不安定であっても、やさしく見守る人がいれば、まだまだ家事ができるお年寄りは沢山いますし、体を動かしている方が認知症にはなりにくいものです。

自宅での生活を継続しながら、お年寄りの有する能力を活かす良い方法はないか？と考え作られたのが「小規模多機能型居宅介護」サービスです。

倶楽部千代田會館平面図



小規模多機能ホームの特徴

「通い」「泊まり」「訪問」のサービスが同時に受けられる！

小規模多機能ホーム「倶楽部千代田會館」は、日中デイサービスのように「通い」、夜間は必要に応じて「泊まり」、自宅にいる時は施設の職員に「訪問」してもらうことができる、登録定員25名の会員制介護サービスのようなものです。

今までの介護サービスでは、デイサービスと訪問介護（ヘルパー）、ショートステイ、ケアマネとそれぞれ異なる事業所と契約を結ぶ必要があったので、手続きが面倒なうえに毎回異なる職員からサービスを受ける為に、特に認知症の方が混乱を起こしやすい環境がありました。しかし、小規模多機能ホームなら、同じ施設で「通い」「泊まり」「訪問」「ケアプラン作成」のサービスが同時に受けられ、馴染みのある職員からサービスを受けられます。

〔登録定員25名、通い定員15名、宿泊定員9名、訪問介護要員1名〕

時間にとられない柔軟なサービス

従来の介護サービスと異なり「サービス提供時間」という概念が無いので、ご家族の方が急に残業や出張になっても、そのまま夜まで「倶楽部千代田會館」で過ごしたり、泊まったりすることができます。

（繁忙期に希望者が集中すると宿泊できない場合がございます。また夜間は送迎サービスが対応できません。しかし、ご家族の入院等緊急時には柔軟に対応致します。）

有する能力を活かしたケア（介護から支援へ）

「倶楽部千代田會館」では、職員とご利用者の皆さんが一緒になって炊事、洗濯、買い物等の活動を行います。認知症のある方でも職員の見守りがあれば、いろいろなことが出来るはずですし、具体的な役割を担っていただくことで、生きがいと自信を持って地域で生活していけるよう支援していく場所です。

地域の活性化

小規模多機能ホームは施設内で介護サービスを行うだけでなく、積極的に外に出て行くことが特徴の一つです。馴染みの商店、美容室、喫茶店などを作り、ご利用者の方と一緒に出かけることで、地域の活性化を図るとともに、地域の方へ高齢者介護の理解を深めてもらったり、気軽に介護の相談を受けられやすくすることも期待されています。

今後、高齢化と共に人口減となる中、高齢者の方が明るく街を歩ける環境を整備することで、地域の活性化に貢献できればと考えております。

小規模多機能型居宅介護の可能性

小規模多機能型居宅介護支援事業所は、厚生労働省の定めた介護報酬設定が低い為、新規事業参入が少なく、東京都内にもまだ30か所程度しか整備されていません。

また、働く介護職員からも、「通い」「泊まり」「訪問」の3つの業務に対応しなければならない為、「仕事が大変そう」と就労を敬遠する風潮が見られます。

しかし、小規模多機能型居宅介護は仕事の守備範囲は広いものの、対象となるのは登録してある25名の方だけで、しかも自宅での生活を主にするので、施設内で生活する訳ではありません。また他の介護サービスのように規則にしばられることが少ないので、「通い」の最中に病院や美容院に行くこともできますし、デイサービスのように帰りの時間に束縛されることも少ないです。

25名のご利用者に対して訪問対応する職員は1名だけですが、例えば洗濯が必要であれば、汚れた衣類を千代田會館利用時に持参して戴き、帰宅時に洗濯したものをお返しすれば、洗濯作業の為にヘルパーを派遣しなくても済むのです。

確かに、小規模多機能型居宅介護を担う職員は様々なことを行います。しかし、創意工夫によって、いかようにも対応できるのではないのでしょうか？職員に求められる能力は、機械的に手早く作業を進むのではなく、ご利用されるお年寄りの方の有する能力を引き出し、上手にお仕事を手伝ってもらえる環境を作ることにあります。

介護職員1名で出来ることは限られていますが、皆でお互いに助け合えば、結構いろいろなことができるはずですよ。

小規模多機能型居宅介護は、認知症介護の切り札とも言われますが、倶楽部千代田會館では敢えて、認知症ケアを中心とした介護をしようとは考えていません。それは認知症ケアを志す介護職員が多いものの、いつの間にか認知症に関する知識に囚われて、介護の基本を見失ってしまうケースがあるからです。

介護の基本はまずご本人の気持ちや生活リズム、次いでご家族の要望を尊重するところから始まるのではないのでしょうか？当たり前のことですが、時間に追われる介護の現場ではなかなか実践できないことです。

時間に追われない伸び伸びとしたケアの実践。どこまでのことができるか未知数ですが、知識でも技術でもなく、介護者の基本である善意を活かし、お互い支え合いながら生活していく、そんなアットホームな場所作りをしていきたいと思えます。

是非、地域の皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

社会福祉法人ケアネット 倶楽部千代田會館 開設準備室

〒164-0013 東京都中野区弥生町 5-2-19 (デ「ササキ」ビル内)

Tel : 03-3382-0566 Fax : 03-3382-0529 (担当 : 山田康彦)

※倶楽部千代田會館の利用申込開始は平成21年3月頃より受付予定ですので、まだ申込をすることはできません。もう少しお待ち下さいますようお願い申し上げます。